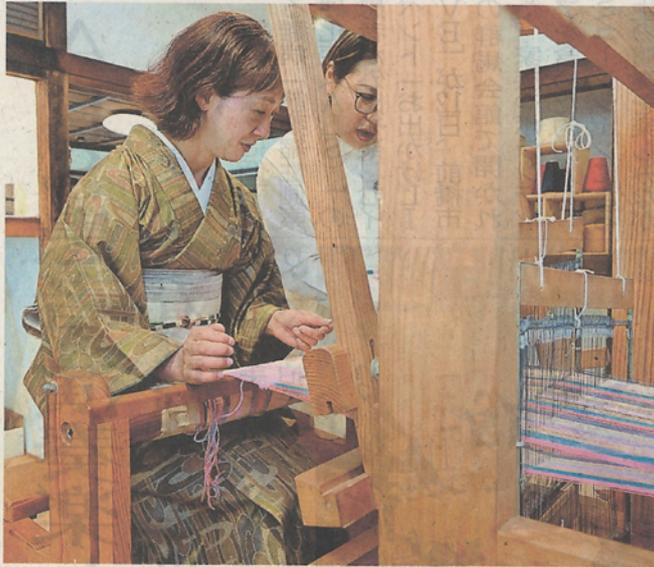


(第三種郵便物承認)

上毛



織り機で布を織る体験をする来場者

館林市の伝統的な綿織物、館林紬の再興に
取り組む地元有志の合同会社「紬・組」は本年度、綿花の栽培から布を織るまでを体験してもら
う新プロジェクトを始める。体験を通じて魅力
を発信し、次世代への継承を図る。12日にオ
ープンした新拠点「ツムギトエンガワ」（同市
仲町）の整備費などに充てる資金を集めるクラ
ウドファンディング（CF）も実施し、幅広く
協力を求める。

館林紬再興向け 新プロジェクト 紬・組 体験通じ継承

和綿栽培し布に織ろう

新プロジェクトの名称は「つむぎつなぐ会」。5月
から来年3月まで全10回の
講習を予定する。参加者に
日本古来の綿花「和綿」の
種や土、肥料などを配り、
各家庭で栽培してもらう。
糸を紡ぐ器具や織り機を参
加者が手作り。収穫した綿
を自作の器具で糸に紡ぎ、
布を織るまでの一連の工程
を体験してもらう。
新プロジェクトのチーフ
ディレクター、後閑静さん
（50）は「館林紬を知って
もらう第一歩になれば」と期
待を込める。
CFは、新拠点の西側に
今後整備する縁側のような
スペースの整備費や、商品
開発の費用などに充てる。
22日に募集を開始し、1口
3300円からで、マグカ
ップなどの返礼があるプラ
ンも用意した。目標額は3
00万円で5月11日まで受
け付ける。
館林紬は現在生産されて
おらず、山岸織物（同市）
が唯一在庫を扱っている。
新拠点は紬・組が山岸織物
から古民家を借りて整備し
た。山岸織物の山岸美恵さ

ん（77）は「鎌倉時代からの
伝統が途絶えてしまうのは
心苦しい。若い人たちが担
ってくれてほしい」とい
う。時代を紡いでほしい」
と期待を寄せる。
この日のオープニングイ
ベントには約200人が来
場し、織り機で布を織る体
験をする人の姿も目立つ

た。会場ではしま模様か印
象的な「日白」を生かし
た新商品のクッキーや、
レースカーテンも紹介し
た。
紬・組代表社員の1人、
飯塚はる香さん（35）は「多
くの人に織り機に触れても
らうなど、やろうとしてい
ることを発信できた。今後
につながる」と手応えを語
った。
（平山舞）